

特定非営利活動法人 遠野山・里・暮らしネットワーク

【活動分野】商工業

設立年 平成 15 年 活動地域 釜石市全域・大槌町全域 構成員数 40 人

活動のきっかけ

グリーンツーリズムに関わるグループやメンバーの支援、協働でのプロジェクトの実施、情報の共有を目的に活動していた。震災後は、震災により仕事を失った人の中で起業に対して意欲的な人に対して、法人のノウハウとスキルを生かして支援を行おうと考え活動を展開。



女性の手仕事(シュシュづくり)

活動内容

(1) 被災して仕事を失った人に対する手仕事の創出・拡大

手仕事などの新しい仕事作りを行い、継続的に被災者が収入を確保できる仕組みづくりを行う。

(2) 手仕事で作成した商品の販売先の確保とネットワーク拡大

(3) 発展的かつ継続的に起業できるための支援

法人のネットワークを活用し起業への取組を支援するほか、内閣府による支援事業などへの紹介を行う。



男性の手仕事(竹細工づくり)

活動の成果

インターネット販売や県内の販売所での販売により平成 25 年 2 月末までに約 5,000 万円を売り上げた。手仕事を行う女性の数は 200 名を越え、月 15 万円の収入を得る方も出てきた。

活動にあたって工夫している点、苦労している点

商品に作り手の名前と地域を書くことにより、消費者からの応援メッセージが商品の作り手に直接届くような仕組みとなっている。

手仕事での商品を販売するなかで、商品の質の低下やバラツキがないように気をつけている。

今後の展開

働く楽しみを分かち合いながら仕事のできる環境をつくり、新しいコミュニティを形成する。

NPO法人としてのネットワークを活用し、継続的な仕事の間作りや更なる商品販売ルートの拡大を目指す。

代表者から一言メッセージ

復旧なくして復興はないので、漁業などの震災前のなりわいに早く戻ることが重要だと考えます。街の再生・復興のベースは個人がなりわいにより収入を得ることから始まります。遠野にいるからこそできる支援を常に考えていきたいと思えます。

連絡先

〒028-0515 遠野市東館町 6-16 産業振興会館内 電話 0198-62-0601

財団法人釜石・大槌地域産業育成センター
かまいしキッチンカープロジェクト
【活動分野】商工業

設立年 平成 24 年 活動地域 釜石市全域 構成員数 5 人（事務局員）

活動のきっかけ

東日本大震災津波により被災した店舗の少しでも早い営業再開を応援するとともに、新たな事業の創出による雇用の場の確保及び地域活性化を目的として、財団法人釜石・大槌産業育成センターが、プラットフォームサービス株式会社の支援を受けながら、震災から約3か月後の平成23年6月17日に、キッチンカーをリースする事業を始めた。



活動内容

車内調理可能な移動販売車であるキッチンカーの運行・運営に関して、新規事業者の募集、各種委員会等の開催、講習会・研修会の開催、各種イベントの開催、各種プロモーション・PR活動などを行っている。

〔キッチンカーのジャンル〕

和洋食料理、和風創作料理、中華料理、居酒屋、カフェ、たこ焼き屋など（平成25年6月現在、8台が稼働中）



営業の様子

活動の成果

市内の様々な場所に出店して住民の皆様に料理を楽しんでいただくことはもちろん、市外・県外の様々なイベントに参加することで、会場のにぎわい創出や釜石のPRに貢献している。

メディアへの取り上げや、外部からの視察が多数あり、釜石の復興を全国にPRしている。

プロジェクトで経験を積んだ2事業者様が卒業し、固定店舗の開店に至っている。

活動にあたって工夫している点、苦労している点

どなたでも、初期コストをあまりかけずに（最低10万円程度）、キッチンカーによる販売に挑戦していただける（ただし審査を通る必要があります）。

プロジェクト参加者に販売のノウハウやコツなどを学んでもらうとともに、高い意識を維持してもらえるよう、講習会・研修会を定期的に開催している。

復興の進展とともに土地の用途が決まってきたことでキッチンカーの出店場所の確保が難しくなってきている。

今後の展開

「ここに行けばいつでもキッチンカーで食べられる」というキッチンカーの基地（大町ほほえむスクエア）が出来た。

今後は高い機動力を生かして、シチュエーションに応じた販売を行っていきたい。

例：朝は急いで食べられるお店、昼はしっかり食べられるお店、夜は飲み屋

代表者から一言メッセージ

魅力的・個性的なメニューが揃っていますので、キッチンカーを見かけたら、是非お立ち寄りください！

本プロジェクトは、被災の有無にかかわらず、どなたでも参加していただけます。飲食店をやってみたい熱意とアイデアはあるけれど、一歩踏み出せないという方は、事務局に一度ご相談ください！

高い機動力を生かしてどこでも出張いたしますので、イベントなどの際はお気軽にお問い合わせください！

連絡先

〒026-0024 釜石市大町3-10-22 電話 0193-22-5085

特定非営利活動法人 まちづくり・ぐるっとおおつち

【活動分野】商工業、環境・文化・交流、防災

設立年 平成 13 年 活動地域 大槌町全域 構成員数 12 人

活動のきっかけ

これまで、ふれあいコミュニティセンターの管理運営や伝統民芸品・地元野菜の販売のほか、漁業農業体験、イトヨの保護・河川清掃等の環境保全等に取り組んできた。震災によりこれまで活動の拠点としてきたセンターが被災したが、被災者の生活再建を支援すべく、平成 23 年 8 月に活動を再開。

現在は、主に仮設住宅入居者の雇用・収入確保や外出機会の創出、心のケア等に取り組んでいる。



おおちゃん・こづちちゃん人形

活動内容

(1) 「おおちゃん・こづちちゃん人形」の販売

町のご当地キャラクターである「おおちゃん」に加え、震災後に、復興・開縁のシンボルとして「こづちちゃん」を考案。団体ホームページ等のほか、「秋田あったかネットワーク」の協力を得て、秋田県内でも販売している。

(2) 被災地支援として寄贈を受けたお地藏様を町内の全仮設団地等に設置し、地域のつながりを促進

(3) 移動販売や特産品開発など地元産業の活性化

(4) 「おおつちさいがいFM」による情報発信（町委託事業）



仮設団地に設置されたお地藏様

活動の成果

「おおちゃん・こづちちゃん人形」は、仮設住宅団地の集会所で制作講習会を定期開催し、販売収益は制作者へ還元するなど、入居者の副業として好評を得ている。

お地藏様は、入居者が独自にマフラーや帽子を被せたり、雨避け小屋を作ったりするなど、各仮設団地から愛される憩いの場として定着している。

移動販売では、来所を心待ちにしている仮設入居者がいるなど、心のケアにも寄与している。

活動にあたって工夫している点、苦労している点

震災以降、様々な町民ニーズに対応するため事業を拡大し、雇用の場の確保につなげている。

現在は、各種助成金等が主な収入源のため、自立的・持続的な組織運営が課題であり、例えば弁当販売事業を新規に立ち上げるなど、独自財源の確保に取り組んでいる。

今後の展開

伝統工芸品を対面販売したり、地元農産物等を販売したりする産直施設をオープンさせる予定である。

代表者から一言メッセージ

大槌町は市街地全体が津波に襲われました。一面更地の状態からの町づくりは課題も多いですが、これを自分達の町を自分達でつくるチャンスと捉えたいです。「住んでいて楽しい町が、来て楽しい町」だと思いますので、新しい町そのものが観光資源となるよう、町民全体で取り組んでいきたいです。

連絡先

〒028-1131 大槌町大槌 15-95-179 電話 0193-55-5221

マリンマザーズきりきり

【活動分野】 商工業

設立年 平成 12 年 活動地域 大槌町吉里吉里地区 構成員数 6 人

活動のきっかけ

平成 12 年にワカメの養殖業を営む漁師の妻 10 人が集まって結成。廃棄処分していたワカメの茎や芯の部分を使った加工食品を製造し、地元の朝市や県内のイベントなどで販売していた。

震災後にはプレハブ小屋を借り、まだがれきが残るなか平成 23 年 8 月 19 日に食堂「よってったんせえ」をオープン。



食堂「よってったんせえ」

活動内容

震災前に作っていたわかめかりんとうなどの水産加工品の作成・販売を再開。

奥州市のレストラン「ロレオール」のシェフ伊藤勝康さんの協力を得ながらメニューを作り、食堂「よってったんせえ」を経営。メンバーはシフトを組んでほぼ毎日店に立つ。



わかめかりんとう

活動の成果

震災前から作っている菓子の一つ、わかめかりんとうは震災前には年間 200 個程度の売り上げだったが、震災後は 1 年で 6,000 個を売り上げるまでとなった。

「よってったんせえ」では作業員とボランティアの人が話をする、学校帰りの中学生が立ち寄っておしゃべりをするなど、津波の話しを聞いたり、話したり、色んな人が泣き笑う光景が見られる。また、今何が必要かという情報交換の場にもなっている。

活動にあたって工夫している点、苦労している点

鮭の親子焼きそばなど、ここでしか食べられないものをつくっていく。

パッケージのデザインを新しくし、お土産用に手に取りやすい量に変えるなど見直しをしている。

原料や設備がない中で、お金をいただいて物をつくっていく大変さを感じている。

今後の展開

新しい販売の創出を目指して、これからも人の声がかかる場所であり続けるため、お客様へのおもてなしを続ける。

代表者から一言メッセージ

同じ環境にいると分からないことでも、外から来た人に聞いてもらうことで泣き笑いできると思い、そういった場づくりを目指してやっています。お出かけの際は気晴らしに一度「よってったんせえ」。

連絡先

〒028-1101 上閉伊郡大槌町吉里吉里 2 丁目 2-16 電話 0193-44-2838

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス
大槌復興刺し子プロジェクト
【活動分野】 商工業

設立年 平成 23 年 活動地域 大槌町大槌地区 構成員数(登録人数) 187 人

活動のきっかけ

震災により、漁業等に携わっていた女性たちの「何かをしたい」という思いを受け、避難所支援をしていた関東からのボランティアによる発案で始まったのが、限られたスペースと道具を用いて、得意の腕を生かせる「刺し子」の制作であった。



刺し子会の様子

活動内容

地域の女性達を集めて刺し子を行う「刺し子会」の開催。

刺し子製品（Tシャツ、パーカー等）の企画、ネットや首都圏等でのイベント販売など。収益の一部は直接、刺し子さんに手渡し。



刺し子の製品（Tシャツ）

活動の成果＜平成 24 年 12 月 31 日時点（累計）＞

- ・販売枚数 21,958 枚 ・売上 26,456,616 円
- ・刺し子さんの登録人数 187 人 ・刺し子さんの収入 10,726,970 円

活動にあたって工夫している点、苦労している点

復興需要はいずれ縮小することを見据え、品質を上げていく。技術力の向上策として「本舗飛騨刺し子」（刺し子専門の会社）による講習会開催や、品質管理のためのマニュアルを作成した。刺し子さんにプロ意識を持ってもらい、お客様との交流を通じてやる気を引き出している。また、生産計画を立てて季節に応じた新商品の開発にも力を注いでいる。

今後の展開

震災から 10 年後の平成 33 年までに、大槌刺し子を現地法人化したい。そして、U・I ターン者も視野にいたれた現地職員と地元住民による運営を実施する。「大槌といえば刺し子」と思わせるような、地域ブランドに発展させたい。

代表者から一言メッセージ

刺し子がコミュニティビジネスとして、大槌に根づくことが目標。刺し子を通じて、刺し子さんの笑顔が広がり、「大槌刺し子」ブランドで地域づくり・まちづくりに貢献したいです。

連絡先

〒028-1121 上閉伊郡大槌町小槌第 26 地割字花輪田 128 番地 4

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス 大槌復興刺し子プロジェクト事務所

電話 0193-55-5368

食生活改善推進員団体連絡協議会釜石支部

【活動分野】保健・福祉

設立年 昭和 54 年 活動地域 釜石市全域・大槌町全域 構成員数 286 人

活動のきっかけ

この地域では塩分の高い食事が好まれるため、死亡原因に占める脳血管疾患・循環器疾患の割合が昔から高かった。そこで減塩食の普及を目的として「釜石市食生活改善推進連絡協議会」および「大槌町食生活改善推進員団体連絡協議会」がそれぞれ昭和 54 年に結成。同時にその連合体として釜石支部を結成した。

活動内容

バランスのとれた食事の普及を主体としており、震災の前も後も活動の基本は変わっていない。震災発生からは被災地域での炊き出しや仮設住宅に一人で暮らす高齢者に対する食事提供支援なども実施。

日常の活動は、釜石地区（80 人）と大槌地区（206 人）でそれぞれに展開している。

釜石では、地元の旬の食材や保存食を使うとともに適量とバランスが理解できるように工夫された容器を利用し、減塩食でも満足できるレシピを考案。仮設住宅に住んでいる方や男性も積極的に招き、栄養に関する講話に続いて実際に調理することなどを通じて「心と体の復興」を担っている。

大槌では、一人暮らしの高齢者などに向けて「おふかし」や「けんちん汁」などの地元料理をメインとした食事を提供するほか、ウォーキングの会と連携して運動と食事を一体的に学ぶ機会を各地で設けるなど、積極的に取り組んでいる。「適量バランス弁当」の取組みも。

活動にあたって工夫している点

「適量バランス弁当箱」（岩手県オリジナル）

全体がコマの形をしており、内部を主食・主菜・副菜・乳製品・果物用のコーナーに区切った弁当容器を活用し、容器自体からも適量でバランスのとれた食事が摂れるよう推奨。



今後の展開

これからも減塩の取組が主眼となる。塩分の過剰摂取が脳梗塞などの脳血管疾患の原因であることは一般に認識されてはいるものの、それが実際の食行動につながっていないため。

代表者から一言メッセージ

岩手県は脳血管疾患による死亡率が高い土地柄ですが、当地域は県内でも特に高い数値を示しています。そのため私たちの知識や工夫を生かして減塩の取組みを展開し、地域の皆さんの健康維持に役立てていただけるよう、これからも努力していきたいと考えています。

連絡先

〒026-0043 釜石市新町 6-50 岩手県釜石保健所内 食生活改善推進員団体連絡協議会釜石支部事務局
電話 0193-25-2702

母と子の虹の架け橋

【活動分野】保健・福祉

設立年 平成 23 年 活動地域 釜石市全域 構成員数 12 人

活動のきっかけ

「子育てについて気軽に相談できる人が身近にいない」という声が多く、母親から聞かれる。また、母親の不安やストレスは子どもにも影響を及ぼすため、こういった不安に応えるために、母親が集える施設として「ママハウス」を開設した。



調理講座の様子

活動内容

主に乳幼児を抱える全ての母親を対象に、平田第6仮設団地の「ママハウス」では、母親達が自由に会話し日ごろの悩みを共有できる「しゃべり場」や、ヨガ講座など母親が楽しめて役に立つ催しを数多く開催。また、大只越町の「虹の家」では、ハローワークやママハウスの講座など、学ぶ母親のお子様を一時預りしている。



語らいのひとときが安心を生む

活動の成果

利用した母親たちからは、「子どもだけではなく、母親を大事にすることが育児支援に繋がっている」と理解されていることに感謝！や、「被災者ではない自分が利用しても良いのだろうかという迷いがあったが、快く受け入れてもらって安心した」などのコメントが寄せられた。利用者が、自分を受け入れて貰っていることに安心していることが大きな成果の一つである。

活動にあたって工夫している点、苦労している点

ニーズの異なる母親へ、様々なメニューで応えた企画をしていくこと。より多くの母親に利用していただきたいが、設備の制約もあるため、全てのニーズには対応できていない。母乳育児の母親には、講座の1-2時間程度の合間で授乳できる環境もセッティングしたい。

今後の展開

子育てが一段落すると、再び仕事を求める母親は多いし、それは社会的にもプラスとなる。仕事を求めた母親が、よりスムーズに雇用に結びつくよう、資格講座などの企画を行いたい。

代表者から一言メッセージ

母親が抱く不安、特に被災地の母親の不安は非常に大きいのが現状です。私たちはそれを改善すべく取り組んでいますが、地域全体で母親をサポートする土壌が必要です。そのことは必ず、子育て世代の定着という将来の「まち」にとって財産になります。また当施設では、被災者ではない母親の悩みにも応えられます。「こんな取組みがあると良い」という要望も遠慮なくあげていただきたいし、また釜石に限らず、大槌などお近くの皆様にも、お気軽にお越しいただきたいと思っております。

連絡先

〒026-0001 釜石市平田 5-84-5 平田第6仮設団地 24-5(談話室) 電話 0193-55-5422

生きがい人形劇団 どっこいしょK

【活動分野】保健・福祉

設立年 平成5年 活動地域 釜石を拠点に各地で公演 構成員数 11人

活動のきっかけ

平成4年に岩手高齢者大学釜石校の人形劇クラブとしてスタートし、翌年に同校生とOBを中心として劇団を結成した。

活動内容

地元の民話を題材とした人形劇を創作し、保育園・幼稚園・介護施設などで公演活動を行っている。演目は、次をはじめ6話。

① わっから淵の河童

釜石の昔話、相撲をとる小川の「わっから淵の河童」と甲子の「大蛇退治」、二つの話を題材にした人形劇

② 吉里吉里坂のキツネ

吉里吉里の昔話、人間を化かす古キツネを懲らしめる人形劇



メンバーの皆さんからは笑いが絶えない



劇に登場する人形たちも津波で被災した

活動の成果

大震災では浜町に保管していた人形や道具の多くを失い、活動の継続を諦めかけたが、残った人形たちに励まされ、人形たちを修復して5月に再開。吉里吉里の避難所で行った再開第1回は、地元の方々にとても喜んでいただき、感動的でさえあった。

演じる側も楽しく、今ではメンバーの生きがいになっている。

活動にあたって工夫している点、苦労している点

次の公演が前の公演よりも良い演技になるように、公演の後に互いに意見を出し合い、それをもとに練習を行っている。(登場のタイミング、演じる位置、間合い、動きなど)

メンバーには30代もいるものの、平均年齢は70代後半であり、後継者の獲得と養成が急がれる。

今後の展開

行政と協働でうつ病対策の人形劇にも取り組んでおり、新たな脚本を創作中であったが、震災により一時中断。今後あらためて行政の協力を得ながら、大震災もテーマにして取り組んでいく。

代表者から一言メッセージ

老人福祉施設で演じた際に、入所して初めて笑ったという方がいて、施設の方にも感謝されました。これまで盛岡や陸前高田でも公演しましたが、依頼があれば遠隔地でも可能な限り応じたいと思います。

連絡先

〒026-0034 釜石市中妻町 1-16-16 座長・千葉さん方 電話 0193-23-7896

地域コミュニティ活動事例集
～釜石・大槌地域におけるコミュニティ活動～

平成 25 年 6 月

発行

岩手県沿岸広域振興局
経営企画部企画推進課

〒026-0043 岩手県釜石市新町 6 番 50 号

電話：0193-25-2701

FAX：0193-23-3472

E-mail：FA0009@pref.iwate.jp

三陸復興 Facebook

<https://www.facebook.com/iwate.sanrikufukkou>